



審査員リレーエッセイ ⑧4

From

大阪府高槻市
平野 俊樹
(ひらの としき)

Profile

専門分野：ISO 9001・ISO 14001—機械（設計開発、製造）、電気
経歴：ヤンマーホールディングス株式会社、インターテック審査員（現職）

審査員からのエッセイをお楽しみください。

「AI審査員」

2022年11月にChatGPT* が公開されて以来、様々な分野での活用が語られている。ISOの審査が出来るかCopilot**に質問してみた。Copilotからは、「ISOの規格は、人間の判断や専門知識が必要な要素が多く含まれ、AIだけでは完全に審査を行うことは難



しい。ただし、AIを補助的に活用することは可能。最終的な判断は人間の審査員が行う必要がある。結論

として、AIは審査プロセスをサポートする有用なツールとして活用できるが、完全な自動審査はまだ実現していない。」との回答。

ひとまず私たちの仕事は無くなると一安心、AIをうまく活用しての審査を真剣に考える時期が近づいていると実感しました。

* Chat (チャット) GPT : 米ベンチャー企業のOpenAI社が開発した対話型の生成AI(人工知能)ツール。

** Copilot (コパイロット) : 米Microsoft社が提供している生成AIツール。

連載「環境とISO 14001」⑧4

「ウェルビーイング(2) ウェルビーイング経営」

環境主任審査員 郷古 宣昭 Nobuaki Goko

前回は「ウェルビーイング (Well-being)」とは「肉体的、精神的、社会的に満たされた状態」であること、近年それが注目されて人々の健康と幸福が求められていることを述べました。今回はウェルビーイングが企業経営に適用される「ウェルビーイング経営」について述べます。

■「ウェルビーイング経営」が注目される背景

幸福を感じている従業員は幸福を感じていない従業員よりも創造性が3倍高く、生産性も1.3倍高いという海外の研究結果(*)があり、企業がウェルビーイングに関心を持つのは当然でしょう。

また、昨今の労働人口の減少下で離職者防止と人材獲得のための魅力的な職場づくりにウェルビーイングの導入を希望する企業もあるでしょう。

(*) 幸福の戦略特集「ハーバード・ビジネス・レビュー」(ダイヤモンド社)2012年5月号

■従業員エンゲージメントとワークエンゲージメント

企業・組織で働く人の働き方改革が進む中で「従業員エンゲージメント」と「ワークエンゲージメント」が注目されています。前者は従業員が企業・組織の目標・理念を理解して貢献意欲・帰属意識を持っている状態で、後者は仕事に対して熱意・没頭・活力が満たされている状態を表しています。

しかし、ここで言う「エンゲージメント」は従業員の所属企業・組織への愛着心を表すビジネス用語であり、通常、企業・組織側の目線で構成されています。これをウェルビーイングと評価するためには働く人の側に立って個人の幸福度を高める施策かどうかを確認する必要があります。

■幸福を感じる要素

幸福の評価については様々な分野で研究されています。ウェルビーイング評価の分野ではペンシルバニア大学のセリグマン教授の5要素が、頭文字を取った「PERMAモデル」として知られているので以下に紹介します。

- ① Positive emotion: ポジティブな感情を持つ
- ② Engagement: 何かに没頭する
- ③ Relationship: 他者との良好な関係を築く
- ④ Meaning: 生きる意味、生きがいを持つ
- ⑤ Accomplishment: 達成感を感じる

①はうれしい・面白い・楽しい・感動・感謝・希望等の感情を持つこと、②は時間を忘れて熱中すること、③は助け合う関係をもつこと、④は社会・地球・環境・地域への貢献等を自覚すること、⑤は目的達成の喜びを意味します。

日本では慶応義塾大学大学院の前野隆司

教授が日本人向けに以下の4因子を提案しています。

- (1) やってみよう因子: やりがいや強みを持つ
- (2) ありがとう因子: 繋がりや感謝、利他性を持つ
- (3) なんとかなる因子: チャレンジ精神をもつ
- (4) ありのままに因子: 独立性と自分らしさを保つ

日本では同調圧力が強く、皆と同じようにする傾向が強いので、(4)をあえて取り入れたのさうです。

■ウェルビーイング経営の実行

ウェルビーイング経営の実行は従業員に軸足を置いて実施することが基本ですので経営者と従業員及び従業員同士のコミュニケーションの仕組みを確立し、対話を活発にすることが前提になります。

「感染予防、ストレスチェックを含む健康管理」「在宅勤務を含む働き方・労働環境の改善」「業務上の課題の解決」「地域や利害関係者との対話」など、前述の幸福の要素を取り込みつつ実行するとよいでしょう。

要は、働く人がプラス指向で挑戦意欲を持ち、生きがいを持つような経営がウェルビーイング経営であり、これが創造性・生産性を高めて社会全体の幸福につながるのです。